



6月

今月の江戸しぐさ「時泥棒」

日本人は古来から、海によつて民族が入れ替わるような侵略から守られ、世界史的にも希な平和な国土で生活をしてきました。

同一言語、単一の民族として平和な時間が非常に長かつたため、共同体意識（無意識を含む）が強い民族になっていきました。

戦国時代のポルトガル宣教師の日記に「日本人は盗みを忌み嫌う民族である」と記されてありますが、悪いことをしたり、人に迷惑をかけることを恥じる感覚は、共同体意識によるものと思われます。

（現在の東京の人口1200万人に対して警察官4万2000人。江戸の人口110万に対して同心・与力（警察官）75名）

江戸時代は十両盗めば死罪となりましたが、「時泥棒、弁済不能な十両の罪」といわれ、所定時間に遅れる等、すぎた時間は取り返しがつかないので”してはいけないこと”という認識が強くありました。

病院は概して待ち時間が長く、時泥棒をしやすいものです。なるべく待ち時間は少なくする努力が大切です。

また、以下も時泥棒と関係するものです。

- ①入院患者の家族への始めの病状説明は早めに設定してあげてください。
- ②必要物品がすぐにでてこないことも時泥棒に通じるものがあります。
- ③勤務等の約束事を守らないことも時泥棒に通じることがあります。
- ④検査は長期間かけず、集中しておこない、早めに診断をつけてあげることは当院の方針です。

※江戸思草は、江戸時代の町民が良いとされること、悪いとされることなどの生活の規範としていたものです。

判断の基準は粋かどうかだったようです。

粋の概念は武士の武士道に対抗するものだったという説があります。他の国にない、一般庶民の高度な精神性が、当時日本に来た外国人に驚きをあたえていたことが多数記録されています。



6月のある日

ヘレン・ハイド

Helen Hyde(1868~1919)

日本を愛したアメリカ人版画家。

江戸の風情が強く残っていた明治期に10年以上滞在し、女性の視点から愛らしい子供の作品をたくさん残してくれました。

当時の外国の観察者の多くが、西洋諸国と子供の様子や子育ての考え方が根本的に異なっていることに驚いていました。

